

## ご挨拶

滋賀県立大学工学部長 徳満勝久



湖風会「工学部学友会」第七回総会の開催を心よりお慶び申し上げます。滋賀県立大学工学部を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

世界的規模で流行したコロナウィルス感染症も2022年度には落ち着きを見せ始め、漸くパンデミック以前の社会に戻りつつある状況になってまいりました。しかしながら、季節性インフルエンザの流行と相まって未だ予断を許さない状況に変わりはなく、工学部としましても慎重かつアクティブに活動を再開し始めたところであります。

工学部のトピックスとしましては、ここ2年で多くの先生方をお迎えできたことが挙げられます。まず、材料化学科では仲村龍介教授を金属材料分野に、機械システム工学科では片山仁志教授をメカトロニクス分野に、電子システム工学科では小林成貴准教授をセンシング工学分野、服部峻准教授を知能情報工学分野にお迎えすることができました。また、2023年4月からはガラス工学研究センターに木田拓充講師（材料化学科有機複合材料分野兼務）と西脇瑞紀講師（材料化学科セラミックス材料分野兼務）に着任頂き、2024年2月には工学部として初めての女性教員である阿部聡子講師を材料化学科金属材料分野にお迎えすることができました。また、2024年4月には嵯峨拓真講師を機械システム工学科生産システム分野にお迎えし、本年度より工学部は総勢50名の教員体制となり、今まで以上に教育と研究に邁進して参りたいと思っております。一方、2023年度工学部の学生に関しましては、総勢635名の内、男子学生547名、女子学生88名となり、女子学生の割合が13.9%と始めて13%を超えましたが、依然他の国公立大学と同様、大変低い値となっております。学科別に見ますと、材料化学科は男子学生170名、女子学生50名と女子学生の割合が22.7%と大変高い値である一方で、機械システム工学科では男子学生188名、女子学生18名と女子学生の割合が8.7%（前年7.4%）と若干増加傾向を示し、また電子システム工学科も男子学生189名、女子学生20名と女子学生の割合が9.6%（前年5.6%）から大幅に増加する傾向となりました。しかしながら、両学科とも全国平均と比較して大変低い値となっており、今後工学部として女子学生の割合をいかに高めていくのかの施策が必要な時期にきていると思っております。そのような状況の下、2023年度より「材料科学科」を「材料化学科」に学科名を変更致しました。これは、本学を志望してくれる高校生や保護者、さらには企業等の方々にとって当学科が「化学」を基本とする学科であることを広く知って頂きたいという思いからであります。その甲斐あってか、2024年度の材料化学科の新生55名の内、女子学生18名（女子学生比率32.7%）が新たに加わってくれることになり、今後ジェンダーフリーを目指した学科・学部となるよう、さらなる女子学生・女性教員の増加を期待したいと思います。

滋賀県立大学工学部は、工学部の教員・学生は元より、学友会の皆様方、地域の方々、学外の多くの方々と交流・連携を図ることによりさらに発展していくことを願っております。今後とも、学友会の皆様方のご支援・ご協力を賜りながら、活力のある滋賀県立大学工学部となりますよう努力して参りたいと思っております。最後になりましたが、工学部学友会様の更なる発展と会員の皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げます。